



「楽しみの中に夢をもって そして次の夢に向かって」

山村 和弘 (37歳・鳥取県)

「アドボケート」(advocate)とは、障害関連では、権利擁護のための活動を支持する人、擁護する人、代弁する人の意味です。この企画では、「セルフ・アドボケート」=ダウン症のある人たちに、自ら、自分の言葉で、現在の生活についてや思いなどを伝えていただきます。全国からの発信をお待ちしています。

ご家族より 養護学校時代から現在までお世話になっている田口久恵先生に聞き取り・代筆をお願いしました。息子は、相談に乗っていただいたり、日帰り旅行に同行していただいたり、深い信頼を寄せています。今回の旅行前後にもお邪魔し「広島旅行」への想いを先生にお話ししたようです。

僕は「あさひ園」で毎日働いています。仕事のあとや土曜、日曜には、仲間とボウリングや卓球の練習、「エコー太鼓」の練習、「からふる」で絵の制作、家ではCDを聴きながら三線の練習、時には竹内さんの所で泊まるなど、楽しく過ごしています。

5月、「エコーとっとり」の仲間と広島へ一泊旅行をしました。その時も、「車椅子の竹内さんの世話は僕がしたい」とお願いしました。大好きな高塚さんには「金麦ビール」を、久しぶりに会う広島の難波さんには「あさひ園のパン」を買って持って行きました。

旅行では、難波さんにおみやげのパンが最高と言われ、竹内さんと高塚さんにも「とても嬉しかった。助かった」とほめられました。カラオケ大会で衣装を着て三線を弾き、みんなで「明日があるさ」を歌い盛り上がりました。

僕が考えていたことを全部させてもらい、みんなが喜んだり楽しんでくれました。「良かった」と言われて、僕はとても嬉しくて、力と自信がわいてきました。

帰ってから田口先生に「平和祈念館で、原爆が落ちる前のドームの写真を見たこと」、

「骨だけの屋根『原爆ドーム』が浮かんできて悲しくなったこと」、「2つのドームを油絵で描いて、平和の大切さをみんなに伝えられたらいいなと思ったこと」を話しました。

「昔のドームのことは図書館で調べないと分からないな」と先生が言われたので、「今度、図書館に連れて行ってください」と頼みました。先生に「レンガの家の油絵」を画集でたくさん見せてもらい、イメージが少しずつわいてきて、早く油絵が描きたくなりました。

今度は沖縄に旅行したいと思います。沖縄で三線の歌をいっぱい聴き、三線を習い、もっと上手になりたい。そのためには、仕事を頑張り、給料を貯めて旅費を作らなくては……僕の夢はもう次に向かってふくらんでいます。



4月12日で37歳になりました。小学校は心障学級、中・高等部は養護学校。卒業後は「あさひ園」に通所しています。仕事は毎朝、支援員さんと二人で車に乗り、商品の搬入を担当。力持ちで頼りにされています。仕事が大好きで、病気のときに休ませるのが大変です。土曜・日曜はスケジュールがいっぱい、土曜は「からふる」で創作活動も。「エコーとっとり」では、畑仕事もこなしています。